



魚日西亞國中興、主ペテルゴロ才テ一代累記

特別
リ 5
15548
2

年號本邦ノ年ヲ記而使計其年歴



魯西亞中興ノ主。ペテルゴロドテ帝。生。魯記

タニルジキ御名ナリ

生涯ナリ

ペテル・アレキシイエス帝。此主寛文十二壬子年彼六月吉
本都モスクオニ生ル。其後天和元辛酉年父死。十
歳ニシテ即位ス。其姉ソニヤ國政ヲ輔ク然ルニ主知
ニテ敏捷ナワノ歐羅巴諸國ノ言語ニ通達セリ。貞
享二丙寅年都尔格ノ人魯西亞ノ邊際ヲ侵
セリ。時ニ主僅ニ年十五ニシテ始テ軍ヲ出シテコレヲ

征ス而後其邊疆ノ戍役及某地ノ土民ノ家每ニ
金帛ヲ与ヘテ軍陣ノ備ヲ賑廩セリ

元祿二巳己年石弊利亞レバリアノ地子ルトシキニスヨイ内丸
子ルトシキ嘉テ新城ヲ築キ支那トノ疆ヲ固ク
セリ此處ヨリ隣邦ノ睦憐ヲ求メシ為ニ使節
北京ニ相通セリ其譯別書アリ

元祿三庚午年石弊利亞ノ西際ワルガテリアニ新

城ヲ築ク

元祿十一戊寅年都尔格及西鞬ト大戰ニ暨コニ

勝

元祿十二己卯年都尔格ト和平セリ

元祿十三庚申年至命ジテ亞細亞アジアヨリ歐羅巴ニ
船舶ヲ相通スベキ為ニ兩大河ヲ相通セシム其水
路ノ北高海ヨリ地中海ニ出テ大西洋ヲ渡海

シテ拂郎察ト諸尼利亞トノ瀬戸ヲ歴テ新
都ペテルホルニ到ルノ海道ヲ開創セリ其大河ト
云ハ其一ハウォルガ河ト云ヒ其二ハドン河ト云アウオル
ガ何ハモスコビア國中ヲ東方ニ相流レ亞細亞ニ
及ベル大長流ノ大河ナリ其流末ハ北高海ニ入ナリ
ドン河ハウォルガ河ノ西方ニ在テモスコビア國中ヲ
南方ニ相流し地中地中海ニ入ナリ兩河各一

十四里許リノ間南北ト相並ビ平行スル處アリ
両河相距ル丁凡三十里計ワナリ各支流アリ
テ相近キ處ヲ検査レ新規新河ニ掘割兩
河相通ギ塲處ト主自ラコレラ審ラニシテコラ
決シ其功三年シテ成ルユレニ因テ巴爾西亞印度
支那等諸國交易ノ貨物ノ運送ノ便利ヲ
得テ各國利益ヲ得ル丁甚タ大ナリ此河道

海道開創ニ縁テ外諸國及魯西亞繁榮ノ基本ナリタリ

元禄十五壬午年雪際亞ト和平セリ則イグル
エシラードヲ治メリ此國元來魯西亞ノ屬國ナリ
シ時ハイングリアトム曾テ一百五十年ノ前ニ
雪際亞ノ人コレヲ侵取シガ今年ペルエ帝ノ功因
テ旧ニ還ス

元禄十六癸未年イングリアノ海港ニ臨テ新規ニ
城郭ヲ築キ新都ヲ建テヨラペルスブルグト
名ク此新都ヲ開基セシ因テ諸國ノ船舶此都
下ニ渡會シテ交易スルニ因テ新都ノ利益ハ莫大シ
新都造營石土木工匠ノ善美ヲ盡ル者凡遠
近諸國コレニヌア者ナレ

本都モスコオヲ相距ル直徑凡一百八千里許リ

ナリ舊跡ノ曲路ヲ穿開悉皆直路トナレ
一條ノ大道トナレ道中、里亭驛舎ノ如キ甚
往還ノ便宜ニ設ケ者至テモ最ヨク備ヒリ

今時四方靜謐、國家太平ナル以テ都鄙ノ
庶民モ主ヲ尊ニテ曰ハアテル。デス・ハアテル。ラニッ。
ト稱セリ。ハアデルハ父ヲ云ヒヌデスハ之享ノ義ナリ。ハアデ
ル。ラウハ人ノ生國ヲ云則生國ノ父トキヲ斯ニナリ
一山德五乙未年、新都ニ多クノ寺觀ヲ興立シテ以テ

法官ノ位階ヲ改整シ雅頌吉戸律管絃舞樂等
ヲ正修シ祭祀ノ事儀ヲ盛ニセリ

同年新都ニ大學校ヲ建テ佛郎察ヨリ博士ヲ
召シ諸家ノ書藉ヲ講ジセシム

享保元而申年ニ主船ニ遊テ西方ノ諸國大泥
和蘭、漢メ利亞、布魯伊鮮、佛郎察等、隆盛
丸國一ツ巡覽アリ此處一ツ遊行ニテ外國ニ在

十六箇月ニシテ本國ニ還ル其後又出遊シテ和
蘭拂郎察ニ入キ馬泥亞・句羅泥亞・雪降亞等
ヲ巡覽セリ皆彼國ノ政刑禮樂ヲ検査シ諾藝
術奇器品等ニ事ヲ審シ其掌師エ近ラ召ス等事
章保五庚午年隣邦ノ礼勿泥亞歸服セリ又同年ワルガテリ
ヘビリイノ土人石麻ヲ獻ス主命ジテ火院布ヲ製衣サレム
西万ノ地
章保六辛丑年主自ラ北高海ノ周邊ヲ遍ク巡見ニテ里
享保七壬寅年彼十月群臣稱號ヲ奉百パアデル・デス
パアデル・ラニツ・ケイゼル・ハミテヘルストード・エン・ペル・デ・ゴロ
オテト云ケイゼル・皇帝・ダヘ元ハ總
ルスラードハ魯西亞ゴヨオテハ大・大魯西亞ノ皇帝
國民ノ父ト云義ナリ

此主幼ヨリ聰明睿知ニシテ長スルニ及シテ寛仁大度
ニシテ民ヲ安ジ國ヲ富スルヲ以テ生涯ノ務メトセリ
才能文武ヲ兼ヌ其德澤ヲ遐邇ニ被ラザルハナレ
政刑服章溝洫軍旅等ハ悉皆講究討論シテ
コレヲ新タニセリ惟國人其因心惠ニ感佩スル而已ニ非
ズ歐羅巴ノ大小國及亞細亞ノ北方諸國ニ至ル
テ畫シコシ歸服セリ其餘澤ニ因テ東方亞細亞

大地ヲ竭シ北亞墨利加ノ大地ニ及ベリ

ベイベルト題セル古典アリ教諭書ナリ主其註解ヲ
述レテ和蘭ノ都下彫刻セラニテ其價ヲ廉シ賤
民タリ凡家毎ニ得易ク其父讀テ子ヲ養ヒ童
蒙ニ教正ニ導カシムトナリ

新都ペテルギルニ於テ醫学校。藥局園。天文学。及
曆學。地理學。等ノ學校ヲ建ツ

北高海入ルダイルト玄河ノ源ニ金鑛ノ在所ヲ察シ
エニ命ニコレラ掘ラレメ莫大ナル黃金ヲ採ルヲ得

テ大ニ財用ヲ足シ安民軍旅ノ要トセリ

北高海ノ海（曲走河）灣ニ於テ戰艦ヲ製造セシメテ湖中ニ
泛ベ水戦ノ術ヲ習練セシメテ以テ都布裕及西韓
等ノ寇敵ヲ防衛トセリ

ペテルオルニ於テモ戰艦ヲ駿ク製造シテ常ノ

備トセリ

右ノ外此主ノ創業夥シ

享保九甲辰年彼正月二十八日主病亡ス時ニ年五十一

二六箇月ナリ在位四十三年其子幼小ヲ以テ其
アタリナヒ
共王ノ后ノ急

室カタリイナコラ嗣グ

碑ヲ建テ其高德ヲ後世ニ傳フ

碑銘

維時一千六百七十二年六月十一日皇天吾君ヲ
寛文廿二年壬午生

降誕生

降ス嗟君生レテ聖德アリ國事ヲ勤ム大
天昇ルトキ
崩歿シ

業成テ既ニ忽トレテ天ニ昇レリ維時一千七百
享保九年甲辰三月

二十五年正月二十八日ナリ嗟君吾國民ヲ
棄タリ而レ凡曷リ敢テ棄シ哉國ヲ治ムニ
女主アリ其志ヲ成スニ嗣子アリ嗟君往昔
ノペル法教ノ先ノ法諱ヲ奉シ神道ヲ以テ帝
師名ナリ

業ヲ継キ其法寇ヲ正セリ嗟君太古ヤヅ
ト國祖ノ曰邦ニ處リ聖功ヲ以テ興ル則ヲ新タ
ニシ其國光ヲ明ニセリ仁ヲ以テ不仁ヲ教ヘ仁
有ラレメ信ラヒテ不誠ヲ化テ誠有ラシム

支那ト魯西亞ト和睦ニ成リ尤次第

昔時支那ト魯西亞ト韓靼ノ地ニ於テ戰爭セレ
フアリ其後和睦トナリシ始末

一千五百九十六七年日本慶長二年數枚ラ持來リテ莫斯哥モスコビア商人ニ
賣ソラ商入其美皮ル見テ懷フニ渠ホガ辛勞シテ取來
モ理ナリト思ヒ夫ヨリ此皮ノ出ル處ヲ探索レケル夫シカニ好
事ノ若アリ某人ニ伴ヒ自ニベリアニ往キ但ニ獵レケルニ彼獸
ヲ獲ク得キ殊ニ獲易ヤリレバ帰テ其事ヲ大臣ガオリス
ペテロウイッキエトウニ達シテ此ボリスハカザアル帝ノ婚友
ノ夫ナリ程ナク一千五百九十六年日本慶長三年ノ初夏カザアル。

デ・テオドル薨レボオリス嗣テカザアルノ位ニ即キ先ニベリア
ニ禮ヲ厚クレ恩義ヲ加ヘ且ツ其使者來ル時ハ大允賜ヲ
与ヘテ帰レシベリア王コレニ感レ終ニ心ヲ傾ケカザアルノ臣ト
ナリエナリ

一千六百五十年長五年日本慶ニカザアル薨レ嗣ノカザアル立ツ塔等
東方計畧ノ事ヲ以テ最ノ國務トセリ此故ニ東方地
理ニ通曉シベリアノ東邊ヨリ深林荒野ヲ開拓テ
道路ヲ創通エテ土ビノ幅員ヲ推量ヒテ衡ニ西韃ノ
土地ニ及ベリ此西韃ノ諸國中ニハ支那ニ屬セモアリテ盜
賊杯モ處ニ住居セラア悉皆平治レ大河ニ沿テ東方進出

要地ニ城郭ヲ構ニ小邑ヲ建テ益ニ東方ニ向クテ張
出セニ取テ遮リ咎ムル人モナカリシト

斯ノ如クニテ終ニ东海ニ近キ東韃ノ境内ニ到レリ東韃ハ
既ニ支那ニ領セル地ナリ莫斯哥未亞ノ衆卒此地未
視ル界守ノ國界ナキ故ニ憚リ農ル所モナク城ヲ築キ其
地ヲ領セムトスルヲ見テ士人大キニ驚キ心カラ盡レテ元
遠避シトスル

然レ氏此地固ヨリ荒蕪無人ノ境内ナレバ莫斯哥未亞ノ
衆卒更服セズニテ曰韃人爰ニ住ムハ國ヨリ韃ノ地ナリ
今亦我等既ニ來リテ住メリ是則我か地也哉茲或是亦天矣

ノ大ほナリ言語ニモ恐レズ威勢ニモ屈セド益猛ナリ
難人益安カラズ事ニ思ニ兵ヲ與キテ夏ソ攻ム其基趾ヲ
毀テ夷ラケド兩次ニ至リレハ氏莫斯哥未亞ノ衆卒復
改築愈堅固ニシテ攻撃手ト雖モ更ニ動カズ

此時既ニ大事ニ及シトス知レバ互ニ軍ヲ起レ雌雄ヲ決ハ
双方ノ難多殊ニ莫斯哥亞ハ本國ヲ隔ルテ若干甚路モ亦容易ナ
ラズ故ニ和睦ラナレ相互ノ無事ヲ願ヒニ和議大半整ヒ尤ニ因テ支
那ノ帝都北京ヲ戌亥ニ距ルテ四百五十里許ルセリニモス哥
未亞領ト云ヘル邑ヲ擇テ交會ノ場トレ兩國ノ使者ヲレテ此地入會合セ
メア盟約ヲナガレメントス

一千六百八十八年日本元禄元年
清康熙二十七年兩國ヨリ各使者ヲ立ニ支那ノ
使者二人某人ハ帝ノ叔父ナリ今一人ハ后女ノ叔父ナリ此ニ
全議政ノ宦人數多副ヘ路次ノ警衛固トシテ從者一万人
多クノ駿馬駱駝大銃ヲ与フ
通詞ニ人ヲ授ク莫斯哥未亞ヨリ來ル所ノ羅甸ノ書ヲ
譯サシシニ為ナリ其一人アペレイラ今一人ヲフランス・ゲルドン
ト云ノ皆歐羅巴ノ產ナリ支那帝此二人ノ榮曜ヲ莫斯
哥未亞ノ衆中ニ見セシガ為ナリ第三位ノ議政宦ト而使
ミ命レ常ニ此人ト同卓ニ飲食レ且何事モ此人皆ニ順テ決込シト
ナリ使者既出駕西北向テ往ク三百里餘ニシテモニゴオス

ト「エリエット」ノ上トノ壠^壠ニ到ルニ圖ラズモ此ニ國ノ合戰時節ニ
當リシ使者ノ勢ノ強大ナル見テ互ニ敵國ノ援兵ナシ
ト怪疑シテコレ支止テ道路ヲ閉キテ通行ナラズ於是
荒野中ニ入り久ク滯留セニ因テ漸シト資糧モ乏ク
是非ノ論スルニ非ざ北京ニ帰リ會合ノ期ヲ延シケリ
一千六百八十九年日本元禄二年 清康熙二十八年ニ約シ交會ノ地北京ヨリ
遠キ故ニ支那ノ患アリ因テ改メ子ブチキウトニル處ニ定ム
此地莫斯哥未亞ノ城邑ナリ北緯五十一度四十分北
京ヨリ子ニ向テ行程凡三百六十餘里

支那人使者一千六百八十九年

年号未詳月吉前夏至前八日

北京ヲ發レ秋月三十日未月酉日ヨリ四十ニ子ブチキウニ著セリ
七日目ニ當ル

然後會合ノ席ニ臨シテ兩國ノ使者各不遜ナリ而ノ盟主
タヒコヲ爭ニ支那ノ使者殊ニ傲慢ナリ因テ其議不整正
各空レ本陣ニ引退キ又通詞事ノ敗ニトスル見テ使者諸
テ曰願クバ萬事ヲ我等ニ任セヌニ左アラバ彼ヲ近テ再び
和ヲ求ミシルノミニ非ガ嘆等ガ心ヲ動シ事ノ成就ヲ願
シムベシト云テ別テサアサン公ニ對レ請シニ使許シラ季好
通詞ケルドルン莫斯哥未亞ノ陣ニ往キ數日止居種々
演説通商ノ利益ノ多タクアルベキ道理ヲ以テ動カレ
ケレバ莫斯哥未亞ノ長宦ニ傾キ秋月三日未月三十日ヨリ三日目

再ヒ會合シテナルギ限ヲ詰テ結アベシトノ旨ヲ承リ
通譯支那ノ本陣ニ歸リ事ノ始末ヲ兩使ニ奏ナレ
兩使大ニ満足シ其日再會和議^詞全ク整ヒタリ
和議既成^域界城ヲ論レ北緯四十八度ニシテ大抵ハ
北京ノ正北ニ當ル處ヲ兩國ノ界限トセリ

利明曰此界限辛後支那ニテ近年地圖ヲ制作シテ刊刻ヤル地圖
ヲ観ルニ西ハ沙漠ノ東ニ始リ東ハ日本ノ海ニ距リ中間ハアモル河ノ西側
ヲ以テ界限トセシラ視ルニ此說ト同シユニ因テユレラ懷フニ支那領
三古ヘ北韓ト称セシ大地アリシラ悉皆魯西亞ノ爲ニ失ヒ其後
和議整^繕石壁セシト支那ノ本國ヨリモ莫大ナル大地ヲ失
ヒ殘念ニモナリレカ不審

野口鈎藏書写之

父敬治政置



長済村野口彦五郎豊昌

三寶銅板書之

鉛筆及繪圖用表紙收